

(授業報告ノート)

模擬結婚式の企画運営を通じた学びの実践 ～にちぶんブライダルプロジェクト 2024～

谷口重徳¹、松笠裕之²、津田なおみ³、佐々野真一⁴

1. はじめに

本稿は、2024 年度に実施した「にちぶんブライダルプロジェクト 2024」の取り組みに関する活動報告である。

本プロジェクトは甲南女子大学文学部日本語日本文化学科におけるプロジェクト型学習プログラムの一つである。ここでは授業科目とは別に学生主体で編成したプロジェクトチームが、担当教員のサポートを受けつつ、主体的に課題に取り組み、その成果を様々な機会に発表することで実践力を育成することがめざされている。にちぶんブライダルプロジェクトは模擬結婚式の企画・運営を通じ、ブライダルなどの式典の場面で求められるホスピタリティや司会進行のためのアナウンス能力の学びを深めることを目的とした参加・体験型学習プログラムの総称であり、学生が新郎新婦、立会人、ディレクター、司会進行、サービスなどの様々な役割を行う。学生は本プロジェクトへの参加を通じ、教室での学びを経験知と重ね合わせ、自身の成長につなげることができる。本プロジェクトは 2021 年度に開始され、2024 年度で 4 回目の開催となる。参加者の中には複数回の参加となる学生もあり、経験を積んだ上級生が下級生に助言を行うなど、実施回数を重ねるごとに経験知が蓄積されている様子も見受けられる。参加学生へのアンケートからも本プロジェクトへの参加を通じ、ブライダルやホスピタリティ、アナウンスなどへの理解をさらに深めたことや学年を超えた学生間の協力活動による大きな達成感を得たことがうかがえる。

2. 2024 年度プロジェクトの概要

(1) プロジェクトの経緯と 2024 年度のねらい

本プロジェクトの始まりは 2021 年度であり、当初は模擬結婚式をスタジオ内で実施し、その映像をオープンキャンパス等で紹介するものであった⁵。2022 年度からは模擬結

¹ 文学部日本語日本文化学科准教授

² 文学部日本語日本文化学科准教授

³ 文学部日本語日本文化学科講師

⁴ 文学部日本語日本文化学科准教授

⁵ 谷口重徳、橋本裕之、津田なおみ、2022 年、「(授業報告ノート) 模擬結婚式の企画運営を通じた学びの実践」『甲南国文』69 号、甲南女子大学国文学会、193(16)-188(21)。

婚式をオープンキャンパス当日に来場者の列席のもとで実施してきた⁶。さらに 2023 年度は学生の企画と運営面での実践力をさらに高めるための演出上の工夫や新たに学外企業からの協力も得た⁷。

2024 年度は、参加メンバーの約 40 %が 1 年生であることと上級生の中には過去に本プロジェクトへの参加経験を持つものも 9 人いたことから、これまでの経験知をメンバー全体で共有しつつ、企画や演出を向上させることをめざした。

(2) 全体の流れ

まず、年度当初の各学年オリエンテーションにおいて今年度のプロジェクトの参加者を募った。4 月 23 日・24 日・25 日に説明会を実施し、参加希望者の登録を行なった。そして 5 月中旬から 7 月下旬までを準備期間とし、8 月 4 日の夏季オープンキャンパス当日の午前と午後の計 2 回、模擬結婚式を実施した（写真 1）。さらに 9 月のオープンキャンパスにおいて模擬結婚式の様子を編集した動画とともに参加学生による発表と展示を行なった。



写真 1 2024 年度模擬結婚式の様子

今年度のプロジェクトには 37 人の学生が参加した。参加学生の学年の内訳は、1 年生 15 人、2 年生 7 人、3 年生 13 人、4 年生 2 人であった。例年に比べ 1、2 年生が多く参加

⁶ 谷口重徳、橋本裕之、津田なおみ、2023 年、「(授業報告ノート) 模擬結婚式の企画運営を通じた学びの実践～にちぶんブライダルプロジェクト 2022～」『甲南国文』70 号、甲南女子大学国文学会、206(1)-201 (6)。

⁷ 谷口重徳、松笠裕之、津田なおみ、佐々野真一、2024 年、「(授業報告ノート) 模擬結婚式の企画運営を通じた学びの実践～にちぶんブライダルプロジェクト 2023～」、『甲南国文』71、甲南女子大学国文学会、pp.192(1)-185 (8)。

したが、この中には高校生の時に本学のオープンキャンパスでこの模擬結婚式に興味を持ったという学生達も含まれている。また、3年生と4年生を合わせた15人中の9人が前年度のプロジェクトに参加した経験があることから、それらの学生達の経験をプロジェクトメンバー全体で共有していくことをめざした。

プロジェクトの運営に際し、学外の企業や団体との調整および模擬結婚式の進行についての助言は主に松笠と津田が、学内調整については主に谷口が、プロジェクトミーティングの運営については谷口、松笠、津田、佐々野が担当した。またプロジェクトの遂行に際しては、日本語日本文化学科構成員の協力と助言を受けた。

(3) 関係部署との調整

実施に際して全日本ブライダル協会本部理事・西村房子氏と全日本ブライダル協会理事・川口ひとみ氏から模擬結婚式の運営について多岐にわたる協力を得た。式の様子を記録する動画については学外のクリエイターに撮影と編集を依頼した。さらに前年度に続き今年度も株式会社ホテルオークラ神戸と株式会社ポートピアホテルから会場でのディスプレイ展示による技術支援を受けた。

学内関係部署との調整については、模擬結婚式をオープンキャンパス当日に実施することから入試課との調整を行った。また模擬結婚式の会場として8号館撮影スタジオを使用するためIT・管財課から協力を受けた。さらに、情報発信のため広報課から協力を受けた。そして各種の手続きに際しては日本語日本文化学科コモンルームを通じ、文学部・国際学部事務課と調整を行った。

3. 模擬結婚式の準備

(1) 準備

今年度の本プロジェクトでは、年度当初の各学年オリエンテーションで参加学生の募集を行った。さらにプロジェクト担当教員のそれぞれの授業の場やコモンルームでチラシを掲示するなどの告知を行ったうえで、例年1回だった説明会を4月23日・24日・25日の3回実施したことで37人の学生が参加した(2023年度は22人)。メンバーとなった学生は事前準備の役割と当日の役割をそれぞれ担当することとした。事前準備は、プロデューサー1人、企画・展示8人、広報・記録5人、物品制作12人、音楽1人、台本制作7人の構成とした(兼任者有り)。また、模擬結婚式当時の役割は、新婦1人、新郎1人、立会人4人、司会とミニスター7人、会場受付・誘導10人、広報2人、音響2人、ディレクター(学生キャプテン)1人、プロデューサー1人の構成とした(兼任者有り)。

準備は、全体の定例ミーティングにより進捗状況と情報の共有を行いつつ、担当グループごとに随時ミーティングと準備作業を行なった（写真2）。メンバー間の情報共有には、メールやSNSのグループでの情報共有等を活用した。

これまで本プロジェクト準備のためのミーティングや展示物等の制作には主に昼休み時間を充てていた。しかし、今年度から本学の授業時間が105分×13回授業に変更された（従来は90分×15回）ことで、昼休み時間が従来の50分から45分に短縮されたため、昼休み

に十分な時間を確保することが難しくなった。また、参加メンバーが増えたことでスケジュール調整も難しくなった。そこで5月、6月の全体ミーティングは5月14日・15日（同内容）、5月21日・23日（同内容）、6月11日、6月25日の計4回にとどめ、必要に応じて各パートによるミーティングを行なった。逆に、昨年まで15週だった授業期間が今年度から13週になったため、前期授業期間が終了した7月中旬から下旬にかけて集中して準備作業とリハーサルを行うことができた。そして8月2日に会場設営と最終チェックを行なった。

（2）演出テーマ

模擬結婚式は現代社会の価値観の多様化を考慮し、例年同様に特定の宗教性を持たないシビルウェディング⁸方式で実施した。また、近年の個性化・多様化するブライダルの場合において新郎新婦の意向に沿ったテーマが設定され、それに沿った演出がなされていることを踏まえ、模擬結婚式でテーマを設定した。

企画担当グループによる原案について全体ミーティングで検討した結果、今年度の模擬結婚式は、ひまわりとその花言葉をイメージした「Sunflower Resort Wedding ～あなただけをみつめる～」をキャッチコピーとし、サマー・リゾートの雰囲気やひまわりの黄色を



写真2 ミーティングの様子

（学科公式インスタグラム 2024年5月21日より）

⁸ シビルウェディングとは、全日本ブライダル協会が提唱する人前式で、結婚式の前に予め役所に婚姻届を提出し、その長が発行する婚姻届受理証明書を司式者が読み上げ、参列者一同に披露するセレモニーである。一般社団法人全日本ブライダル協会 HP（<https://www.ajba-civil.or.jp/civil/civil01.html>）、2024年12月20日閲覧）。

基調とする演出を行なった。会場をたくさんのひまわりで装飾し、株式会社ホテルオークラ神戸と株式会社ポートピアホテルからもテーマに沿ったディスプレイ展示の技術支援を受けた（写真3）。こうしたテーマ設定により、統一感のある会場づくりができた。



写真3 ホテルオークラ神戸（左）とポートピアホテル（右）による展示

2022年度に模擬結婚式をオープンキャンパスに開催するようになってから、毎回何らかの形で来場者がセレモニーに参加できるような演出を行なってきた。今年度はダーズンフラワーセレモニーを行なった。このセレモニーでは、新郎がゲスト（来場者）から一人一本ずつ、計12本の花⁹を受け取り、それをブーケに束ね、新婦へ誓いの言葉とともにそれを贈る。新婦はそれに応え、ブーケの中から一輪を選び、新郎の胸元に飾ることで二人の誓いが成立するという演出である（写真4）。また、来場者が会場に入場する際に、絵の具と絵筆を用意し、ウェディングキャンパスに彩色してもらうという演出も行う



写真4 ダーズンフラワーセレモニー

こととした。さらに新郎新婦の退場時にビーズを真珠に見立てたパールシャワーの際にも

⁹ それぞれに感謝、誠実、幸福、信頼、希望、愛情、情熱、真実、尊敬、栄光、努力、永遠の意味が込められていることを司会者が来場者に説明を行った。

来場者に協力してもらった。

今年度も会場内で上映するエンディングロール映像を制作し、新郎新婦役学生の幼少期から現在までを紹介する画像や模擬結婚式の準備の様子なども紹介した。さらに会場内にも新郎新婦役学生を紹介する写真などを掲示した。一連の演出に必要な小道具の制作と合わせて結婚届受理証明書、新郎新婦からのメッセージカード、配布用プログラムなども制作した。これらの取り組みは、前年度から参加している企画担当メンバーがこれまでの経験を踏まえ、模擬結婚式当日の限られたタイムスケジュールの中でも演出上の効果を発揮できるように工夫されたものである。

(3) 事前学習

学生のブライダルへの理解を深めるために外部講師による特別授業（講演会）を6月18日3時間目に実施した。そこでは手塚潤氏（株式会社ホテルオークラ神戸執行役員・営業部長）による「ブライダルのホスピタリティ」という講演と小野雅世氏（綿善旅館・女将）による「接客タレント事務所～綿善旅館～」という講演を行い、ブライダルやホスピタリティ業界について理解を深める機会とした。対象学生は、ホスピタリティコースの3年生およびアナウンス入門受講者も含め希望のあった学生であり、実質的にプロジェクト参加学生が数多く受講した。

4. 模擬結婚式の実施

(1) 模擬結婚式の実施

今年度の模擬結婚式は、8月4日のオープンキャンパスの学科イベントとして、午前と午後の2回実施した。午前と午後の部ともに用意した約60席が満席となった。

模擬結婚式の進行の概要は次のとおりである。まず841教室にてイベント来場者（列席者）に趣旨説明を行い、その後、（841教室に隣接する）AVスタジオの模擬結婚式会場へ誘導した。列席者への案内と会場への誘導には案内受付役の学生が対応した。

模擬結婚式は、前年に続き、全日本ブライダル協会が提唱するシビルウェディングという人前式の形式で実施した。来場者には入場の際にウェディングキャンバスに彩色をしてもらった後、バージンロードを挟んで整列してもらった。また、来場者のうち12人にダーズンフラワーセレモニー用の花を一本ずつ渡しておいた。司会によるアナウンスに従いミニスター役、介添え役の学生が入場した。ミニスターの開会の辞に続いて新郎役学生が入場し、バージンロードを歩きながら順に1本ずつ花を受け取り、ブーケに束ねた後、新婦役の学生とその付き添い学生が入場した。新郎新婦のブーケと花の交換の後、ミニスターの進行により、誓約、指輪交換が行われた。そしてミニスターによる祝辞を経て、閉式の辞と進んだ。新郎新婦の退場の際には、パールシャワーに協力していただくことで、列席者にもイベントへ参加した気分を体感してもらえるようにした。

(2) 成果発表

9月8日のオープンキャンパス¹⁰において模擬結婚式の様子を編集した動画と展示物を紹介するとともに、参加学生によるプレゼンテーションを行い、学生の視点から本プロジェクトの概要、準備作業の詳細、参加した感想などを来場者に紹介した。来場者からは本プロジェクトに対して肯定的な評価を多く頂いた。

5. プロジェクトの効果

(1) 学びの効果

今年度もオープンキャンパス当日の来場者の列席のもとで模擬結婚式を開催したことから、緊張感のあるイベントとなり、参加学生にとっては貴重な経験の機会になったといえる。模擬結婚式において学生ディレクター（学生キャプテン）は新郎新婦や立会人の入退場のタイミング、場面転換等において常に全体の流れを見ながら適切なタイミングで指示を出すことが求められる。今年度の学生ディレクターは、昨年度の会場担当の経験者であることや昨年度の学生ディレクター経験者も適宜サポートに入ったこと、さらにメンバー全体の中に昨年度の経験者が9人いたことから、とてもスムーズな進行が行われた。このように本プロジェクトを継続してきたことによって、参加学生の中に経験知が積み重ねられ、教育効果もいっそう高まっていると思われる。

本プロジェクトを通じた学びの深まりと成長の実感の様子は以下の参加学生のコメントからもうかがえる¹¹。

「ブライダルプロジェクトに参加して、まずは純粋に楽しかったです。結婚式の魅力を感じられたし、ブライダル業界へ興味を持つことができました。多くのゲストの方に来ていただいて、予想よりも素敵な会を成功させることができたと感じました。また、1つのものを完成、そして成功させるには多くの人の力が必要だと改めて学ぶことができました。今回は私が考えたテーマを採用していただいて、自分の中でも結構じっくりとしたことしか考えられなかったので申し訳なかったと思っていたけど、そこから広げていただいてとても素敵な空間を作ることができたと感じました。このように個人で考えて持ち寄った案を合わせることで素敵な企画ができたり、学年問わず協力して作業をしたり、と協力することの大切さを感じられました。」(3年生)

「今回、私は物品と会場を担当しました。みんなで協力してリボンやバージンロード

¹⁰ 台風接近のためオープンキャンパスの日程は9月1日から9月8日に変更された。

¹¹ 模擬結婚式終了後、参加学生37人にプロジェクトへの気づきについて自由回答形式でアンケートを行い、24人から回答を得た。回答者の学年の内訳は1年生11人、2年生6人、3年生6人、4年生1人である。

を作りました。特にバージンロードは大きいのでテープを貼ったり、下の赤いところが所々出てしまい何回も直したりして大変だったところもありましたが、会場の完成を見て頑張った良かったと感じました。また、式が滞りなく終わったので嬉しかったし、素晴らしい式となり感動しました。私は、ブライダルについて少し興味はあったので参加してみました。自分たちで長い間企画から運営をしていたので成功した時は達成感がありました。ブライダル関係の仕事について実践しながら知ることができ、また、立会人をアッシャーやブライズメイドと呼ぶことなど勉強になる所もあり、非常に有意義な時間を過ごすことができました。普段関わることの無い、2回生や3回生の方々とも交流する機会ができたのも良かったです。」(1年生)

「私の役割は物品と会場[の担当]で、新郎新婦や企画班に比べたらとても裏の仕事ですが、夏休みに学校に行きペーパーフラワーやバージンロードのアイロンがけをし、本番とてもきれいな式場になりとても達成感がありました。また、会場ではいくつか仕事があり式の最中に走りながら次の場所に行くことがあり大変な場面も多くあったけど来てくれた高校生や保護者の方が良かったと言って帰って行くのを見て、頑張ってたよかったなと感じました。」(1年生)

「学年関係なくそれぞれの意見を主張できる環境であったこと、中心の人の指示に対して周りが指示されたことプラスで何かしらの行動や準備ができたことが良かったと思います。全員が受身の姿勢ではなく、それぞれがどうしたら成功するのか、自分ができる行動はなにかを考えながら動いていたように感じたのがとても良かったと思います。」(3年生)

また、高校生時に本学のオープンキャンパスを通じてこの模擬結婚式に興味を持ったことやブライダル業界に強い関心を持っていること、さらにアナウンス等について学生の理解が深まったことなども以下のコメントからうかがえる。

「高校生のときから大学に入ったら絶対やってみたかったブライダルプロジェクトに今回初めて台本、司会班として参加しましたが、他の大学では学べないようなことや、結婚式での言葉の言い回しなど、初めて知ることがたくさんあったので、とても勉強になりました。また来年のブライダルプロジェクトもぜひ参加して他の役割にも携わってみたいと思いました。」(1年生)

「高校3年生の際のOCで模擬結婚式に参加させていただき、携わる側になりたいとずっと思っていたので企画、ディレクターという役割でプロジェクトに参加できたことが嬉しかったです。企画を考えるとところからのスタートでしたが、0から1を生み

出す難しさを感じました。テーマが決まってからもセレモニーや全体の流れなどの構成など、式に関わることができたことで、全体の流れや一つ一つのセレモニーが持つ意味を学ぶことができました。また、新郎新婦のフィッティングにも同行させていただきました。将来ブライダル業界への就職を考えているので、挙式の企画やドレスサロンへお邪魔し間近でお仕事を拝見できたことは、よりクリアに将来を描く糧となりました。」(1年生)

「入退場するときの扉係をしていたのですが、すごく裏方の作業だなと感じました。それでもミニスターの方や新郎新婦役の方々が褒めてくださったり、実際の式場でもこのような方々がいるのかと思うと、感謝しなければならない人は、ゲストに直接的に関わるスタッフさん以外にも居るということを再確認できました。」(1年生)

「今回初めてブライダルプロジェクトに参加し、ミニスターの役割をできたことを誇りに思います。台本作りはとても難しく、司会班全員頭を悩ませていました。しかし、先輩や後輩、メンバーのおかげで素敵な文章に仕上がりました。私はゆっくり、心を込めて司会をしようと思心に決めて行いました。本番は囁むこともなく、臨機応変な対応もできて本当に良かったです。改めて司会をすることが楽しい、ミニスターをして良かったと心の底から思いました。ブライダルは誰もが幸せな気持ちに溢れることで成り立っていると感じました。」(2年生)

学年や所属ゼミ、コース(分野)を超えて協力しながら一つの事業を成し遂げるという参加体験型の学びの機会は学生にとって大きな意義があるといえる。「1年で初めてだったので分からないことばかりだったけど、先輩方が優しく接してくれてとてもいい思い出になりました。来年も参加したいと思いました」というコメントや「今回初めての参加だったので不安もありましたが、先輩や同級生、先生方とたくさん話し合って作り上げていくことができたので、達成感も充実感もあったプロジェクト期間になったと思います」というコメントなどからも、学生にとって印象深い経験になったことがうかがえる。

(2) 情報発信

本プロジェクトに関する情報発信は前述のオープンキャンパスに加え、「学科ブログ(学科日誌)」(8月28日記事/9月10日記事)や「学科インスタグラム」(5月21日、7月11日、7月30日、8月4日、8月22日、9月4日)でも準備段階から模擬結婚式当日の様子、プロジェクト報告会に至るまで随時情報発信を行った。また受験生用の『大学案内』にも関連情報が紹介される。

オープンキャンパスなどで本学科に関心を持つ高校生・受験生から本プロジェクトに対して肯定的な反響が多々見受けられることから、本学科の特色ある教育内容の一つとし

て今後も様々な機会に本プロジェクトの情報発信を試みたい。

6. 今後の展望

2021年度の開始から4回目の実施となったが、今年度は37人の参加学生のうち9人が前年度から継続して参加した（昨年度は22人中、継続は3人）ことで、これまで以上に過去の経験の蓄積が十分に活かせたといえる。また、授業期間終了後の7月中旬から下旬に集中してリハーサルや物品制作に取り組む期間を確保できたこともスムーズな運営の一因になったと考えられる。

本プロジェクトの次年度以降の改善点としては、新規参加メンバーにもプロジェクトの全体像がイメージできるように、プロジェクトの初期段階で過去のプロジェクトの詳細を学ぶ事例研究会のような機会があるとさらに効果的と思われる。また、本プロジェクトと授業との連動性を高めることも重要であろう。その方策の一つとして、プロジェクト学習の選択科目化ということも提案したい。

今年度も前年度に続き、全日本ブライダル協会関係者をはじめ、株式会社ホテルオークラ神戸と株式会社ポートピアホテルから支援を受けることができた。今後も本プロジェクトに関連する学外企業や団体との連携を重ねることで、本プロジェクトを起点とした産学連携へつなげるなどの展開をはかりながら、本プロジェクトを特色ある教育プログラムの一つとしてさらに発展させていくことが望まれる。

本プロジェクトの運営に際し、日本語日本文化学科の先生方とコモンルーム、そしてIT・管財課、入試課、広報課には多大なご支援をいただいた。記して感謝申し上げる。